

# 第4次三田市環境基本計画の実施状況について（計画期間 R5～R9）

環境将来像	基本方針	施策の方向性	具体的施策
人の環 わ で 自然と暮らしを紡ぐまち 三田	<b>(Ⅰ) 参加・協働・共創</b> 一人ひとりがあるべき将来像を共有し、パートナーシップをはぐくむまちをつくる	①多様な環境学習メニューの充実 ②環境保全活動の実践・支援 ③計画推進体制の強化	①学校、地域、職場等における環境学習の推進 ②環境学習プログラムの多様化に向けた調査・検討 ①環境保全活動に役立つ適切な環境情報の提供 ②活動の拠点となる場の充実 ①市民・事業者・行政の連携・協働体制の強化 ②環境保全活動を担うリーダー的人材の育成 ③多様な制度の活用による推進体制の強化
	<b>(Ⅱ) 自然共生社会</b> 四季折々の恵みをもたらす豊かな自然に感謝し、人と自然が共生できるまちをつくる	①豊かな緑と安らぎの水辺の保全・創造 ②生物多様性の保全と持続的利用	①山・川、湿原等の自然環境の保全 ②里地里山の積極的な保全 ③河川やため池の水質維持・浄化 ①野生動植物の生息・生育空間の保全・創出 ②多様な生態系の継続的な観察・保全 ③外来生物対策の推進 ④自然を活かしたエコツーリズムの推進
	<b>(Ⅲ) 循環型社会</b> 限りある資源の消費を抑制し、環境への負荷が少ないまちをつくる	①資源循環型都市システムの構築 ②流域の健全な水資源の確保	①ごみの発生・排出抑制 ②資源の再使用の推進 ③資源リサイクルの推進 ④ごみの適正処理の推進 ①河川や地下水の水量の確保 ②節水・雨水利用等による水資源の有効利用
	<b>(Ⅳ) 脱炭素型社会            ゼロカーボンシティ</b> 一人ひとりがライフスタイルを見直し、地球温暖化抑制に貢献するまちをつくる	①地域と共生する再生可能エネルギーの導入 ②更なる省エネルギー対策の推進 ③気候変動に対する適応策の推進	①エネルギーの脱炭素化 ①省エネルギーの推進 ②移動・輸送の脱炭素化 ①気候変動に伴う異常気象への対応
	<b>(Ⅴ) 安全・安心・快適</b> 笑顔にあふれ、安らぎやふるさを感じる美しいまちをつくる	①安全・安心な住環境の保全 ②良好な住環境の維持、美化の促進 ③魅力あるまちなみ、景観の形成	①大気、水質、騒音・振動、悪臭等の公害防止 ②ごみの不法投棄の防止 ③新たな環境汚染物質に関する情報収集 ④災害に強い環境づくりの推進 ①環境意識の向上による良好な住環境の維持 ②地域の清掃・美化活動の推進 ③まちのユニバーサルデザインの推進 ①自然・歴史・文化に息づく景観づくりの推進 ②まちなかの緑と水辺の保全・育成・創出 ③文化財等の地域資源の保存

令和6年度 主な取組	成果指標	課題・今後の取組
・学校や地域、職場等で幅広い世代で、クッキングやLED ランタン、出前講座や講座、SDGs を考える講座など、様々な環境学習を推進できた。 ・適切や環境情報の提供では、チラシやパンフレットなどの提供やイベントの開催、冊子の配布などを行った。 ・市民、事業者、行政の連携、協働体制の強化では、パナソニックや大阪ガスなど企業と連携した官民連携での事業開催やクリーンサポーターに加入を呼びかけるなど、協働して取り組むことができた。	・環境学習プログラム数 R6:32 講座(R9:30講座) ・保全活動や体験学習が可能な里山の数 R6:9箇所(R9:10箇所) ・里山ボランティアの延べ活動日数 R6:304日(R9:310日以上)	・環境学習では、SDGs やゼロカーボンなど身近にある課題について考えたり、ワークショップやゲーム形式で参加したり、様々な視点での展開が必要である。今後とも学校や職場に限らず、地域やサークル等のさまざまな場面で取組を広げていくことで、引き続き市民や企業等連携した取組みが必要である。
・里山保全活動団体と連携し、自然公園等の整備、保全を行った。 ・皿池湿原で市主催の見学会の他、県主催の協議会や緑の少年団の活動を通じた体験学習、ひょうご北摂里山ライドなど、生態系の継続的な観察や自然を生かしたエコツーリズムを推進できた。 ・R6 年度市内で初めて特定外来生物対策クビアカツヤカミキリが発見された。市広報やホームページでの啓発や防除ネットや薬剤散布、伐採等を実施。	・市内河川(28 地点)の水質監視 R6:17 地点(R9:増加) ・さんだ生物多様性保全計画の確実な推進 R6:取組実施(R9:計画目標の達成に向けた取組の推進)	・市内の生物多様性保全について様々な視点から市民や事業所等連携しながら総合的に取組む必要がある。 ・特定外来生物であるクビアカツヤカミキリが発見され、県、県樹木医と連携しながら防除対策を実施した。今後は、県や近隣市、更には多くの市民と連携した対応が必要である。
・子どもから大人まで、幅広い世代であらゆる機会に 3R 活動にかかる取組を実施できた。 ・里山保全活動団体から木の駅プロジェクトの運営候補者を募り、協議や事業採算性などを検証するための実証実験を行い、仕組みづくりを進めるとともに、関心の醸成を図り、森林整備の担い手や消費者等を発掘するためのイベントを開催した。	・ごみの再生利用率 R6:19.20%(R9:18.4%) ・1 人 1 日平均使用水量 R6:296ℓ (R9:287ℓ)	・今後ともごみの 3R 活動に積極的に取り組んでいる事業所を優良事業所として認定していく。 ・持続可能な木の駅プロジェクトの実現に向けた制度の確立や、伐採木竹の供給元、作製した資源物の消費者確保を進める必要がある。
・市聖苑をはじめ消防本部、市民センターなど公共施設への太陽光発電設備設置、太陽光発電の共同購入などゼロカーボンシティの実現に向けて取組を実施した。 ・市役所玄関口へのウォーターサーバー設置に併せて、プラスチックごみ削減を目指しさんだゼロカーボンシティマイボトル（寄付付商品）を販売した。 ・近年の気候変動、地球温暖化を踏まえ関係課連携で原因であるゼロカーボンの視点や熱中症予防、防災の視点から講演やワークショップを開催した。	・太陽光発電エネルギー導入比 R6(R4):12.4%(R9:14.5%以上) ・電気自動車、PHEV の市内保有台数 R6:546 台 (R9:2000 台) ・ひょうご防災ネットアプリ登録者数 R6:13,614 件(R9:増加)	・市公共施設の太陽光発電設置は消防本部や聖苑など 5 施設の設置を行った。今後とも設置に向けて施設マネジメント部署と連携しながら進める。 ・気候変動対策としてゼロカーボンシティの実現に向けて市民一人ひとりが環境意識を持ち主体的な取組みにつながるよう更なる意識啓発が必要である。
・ごみの不法投棄防止のための環境パトロールと道路や公園管理のパトロールを民間事業者のノウハウを活用しながら一元化し効率的な業務委託を実施した。 ・市公式ラインやホームページを活用した不法投棄システムにより市民と協働した環境美化に取り組んだ ・クラウドファンディング（目標達成）を活用し、野良猫の被害抑制を図るため「不妊去勢手術費助成補助金」を実施した。猫捕獲機の貸出しや猫に困っている市民への猫除け器の貸出しを実施した。	・年間の公害等に関する苦情件数 R6:119 件 (R9:50 件) ・さんだクリーンサポーターの登録者数 R6:1,752 人 (R9:1,800 人) ・地域の緑化団体による緑化箇所数 R6:123 箇所(R9:125 箇所以上)	・TNR 活動では緩やかな頭数抑制のため、現状の野良猫の糞尿被害がすぐ解決するものではなく地域の理解や協力が必要不可欠であり、今後とも継続的に周知、啓発を行う必要がある。 ・道路、公園の維持管理、環境美化の包括的民間委託の実施により効率的な業務を実施している。今後とも継続的に柔軟な対応による業務遂行が必要である。

Ⅰ 参加・協働・共創

Ⅱ 自然共生社会

Ⅲ 循環型社会

Ⅳ 脱炭素型社会  
ゼロカーボンシティ

Ⅴ 安全・安心・快適